



○これまでの富士市のまちづくり活動について

- ・今やっていることが足腰強いコミュニティ（和久田委員）
- ・今ある団体の連携が上手くいっているなら、それを大事にしたい（松野委員）
- ・これまでの地区活動の良い所が失われないようにすべき（西森委員）
- ・富士市は、地域の活動が活発（今村委員）
- ・任期が長いと協力システムが構築できる（望月委員）
- ・輪番制だと活動への思い入れが湧かない（望月委員）
- ・在籍年数の長さが人材育成につながる（石川委員）

○まちづくり協議会について

- ・条例で縛るようなことはすべきでない（西森委員）
- ・部会を全地区統一のメリットもある（和久田委員）
- ・既存の良さを生かした、各種団体をつなぐネットワークを構築したい（松野委員）
- ・協議会会長と地区連合会長の兼務・非兼務を全地区で統一できれば良い（杉山副委員長）
- ・お金と人を持っているところが自治組織のガバナンスを担う部門としてやるべき（加藤委員）
- ・行事の継続性を大事にすべき（齋藤委員）
- ・継続性を持たせるには、役員の仕組みづくりが必要だ（加藤委員）
- ・既存団体よりNPO、事業所との連携を重視するのか？（齋藤委員）

○活動資金について

- ・補助金の流れを一括すればメリットもあるが懸念もある（松本委員）
- ・現状の補助金や団体ごとの会計が非常に複雑（西森委員）
- ・まちづくり協議会に入ると、個別の団体の資金をすべて持っていかれる不安（今村委員）
- ・地区の活動資金をすべてオープンにしていくべきなのか（杉山副委員長・石川委員）

○地域コミュニティに求められるもの

- ・地域の強み、弱みを地域の人たちで考えていく必要がある（明石委員）
- ・マンネリ化ややらされ感、地区によってはこれから課題になってくる（和久田委員）
- ・地域の弱みは、いろいろなネットワークを作りながら解消していく（明石委員）
- ・10年先～20年先を見据えた時の富士市のあり方を考えるべき（明石委員）
- ・財政問題や、少子高齢・人口減少社会を見据えた地域力の構築（加藤委員）
- ・これから一番大事になるのは地域力、地域力とは福祉力、防災力、教育力（明石委員）
- ・若い人や子育て世代の声を反映できるようにしたい（佐久間委員）
- ・地域の外国人は町内会に入るところから始めたらいい（佐久間委員）

○行政の周知不足

- ・どれだけの人たちにまちづくり協議会の取組が浸透しているのか？（西森委員）
- ・包括補助金に関する検討状況も一部のしか知らない（杉山副委員長）



